

2025 大阪・関西万博 将来世代にとってどうだった？

SDGs 万博市民アクションで意見交換会

10月23日(木)19時 大阪市立総合生涯学習センター研修室(大阪駅前第2ビル5F)

4月13日から10月13日まで半年間、人工島夢洲での開催は、ひとまず大きな事故もなく閉幕したことがなによりだった。(メタンガス、アクセスの脆弱性、「またない」最新システムの機能不全、未払い賃金問題等々)

以前から大型プロジェクトの開催には、国家予算をかなりつぎ込まなければ成立しない代物だが、万国博覧会が今の時代にあっているのか議論はいまだにない。前回のドバイ万博でも、「持続可能な開発目標」SDGs17の目標をかかげ、不平等や飢餓など様々な問題の根本的な解決にむけ各国が目標を定めています。「だれ一人取り残されない」①貧困をなくす②飢餓をゼロに③全てのの人に健康と福祉を④質の高い教育をみんなに⑤ジェンダー平等の実現⑥安全な水とトイレを世界中に⑦エネルギーをみんなにクリーンに⑧働きがいも経済成長も⑨産業と技術革新の基盤をつくろう⑩人や国の不平等をなくそう⑪住み続けられるまちづくり⑫つくる責任、使う責任⑬気候変動に具体的な対策を⑭海の豊かさを守る⑮山の豊かさを守る⑯平和と公正をすべての人に⑰パートナーシップで目標を達成しよう。

ごみの組成調査は、本来は主催者側がするべきですが、協会の意向によりできなくなり、廃棄物専門家と急遽調査方法を変えて、会場内における3Rステーション、リユース食器導入店舗での人の動向調査を実施しました。2005年に開催された愛・地球博よりごみの総量は大きく減ったとのこと、資源物を分け循環していくことが市民生活に定着したことが大きく、万博内での3Rステーションでのスムーズなごみと資源分別に繋がったといえる。ごみ事情がちがう海外の方はやはり戸惑がある。サインも表示もピクトグラムが分かりにくかった。これだけAIを駆使した各パビリオンなのに、日常遣いには発揮されていないのが残念。

(山口)

万博の開催意義って？

1970年大阪万博の入場者数は6422万人に比して2557万人(目標は2820万人)。すでに大型イベントの終焉だが、国家予算を10兆円(年間予算の1/10)をつぎ込んだ成果はあるのか。国民は物価高騰に賃金が追いつかず生活にあえいでいる。

世界中の戦火は止まず、ロシアのウクライナ侵攻。イスラエルによるパレスチナ・ガザ壊滅作戦も止められない国際政治力の低下。命の灯火が危うい実感しかないが、、、。



People's Action for SDGs EXPO
SDGs万博市民アクション

わいわい 振り返り会！

市民の目で見えた大阪・関西万博

大阪・関西万博が閉会后、市民の目から見て”SDGs万博”はどうだったのか？ 環境、まちづくり、人権、平和、交通など、さまざまなテーマでウォッチしてきた市民団体の仲間が集まり、楽しく語り合いながら振り返ります。万博を経験した人も、関心があったけれど行けなかった人も、ぜひ一緒に”市民の視点”で考えてみませんか？

日時 10月23日(木) 19:00-21:00

場所 大阪市立総合生涯学習センター 第一研修室 大阪駅前第2ビル5階

対象 誰でも 無料

申込はこちらから → 

お問い合せ SDGs万博市民アクション 事務局 AMネットワーク info@am-net.org

様々な視点で万博を振り返ろう

各分科会のお話

ワークショップ

この活動は独立行政法人環境再生保全機構地球環境基金の助成を受けて行っています。